

恵那市立飯地小学校 第1回学校運営協議会（議事録より）

1 日 時 令和2年6月25日（木） 15:00～16:30

2 場 所 飯地小学校会議室

3 参加者

＜令和2年度 飯地小学校 学校運営協議会委員＞

飯地自治区協議会会長 瀬瀬 佳恭 様 飯地三学塾塾長 安田 勲 様

壮健クラブ会長 平井 一兵 様 民生児童委員長 瀬瀬 清一 様

主任児童委員 楠 むつみ 様 ふるさと民俗資料館館長 山口 鉦一 様

飯地振興事務所所長 瀬瀬 雄二 様 飯地小学校PTA会長 田中 正 様

＜市教育委員会＞ 丸山 優 様 ・ 遠藤 滋 様

＜学校＞ 校長 竹中 学 ・ 教頭 加藤 美香子 以上12名参加

4 議事

（1） 学校長挨拶

（2） 教育委員会挨拶及び委嘱

学校運営協議会が発足して3年目になる。1年目は模索の年、2年目は機能的になるように考える年だった。3年目の今年は、実質的な動きができるようにしたい。そして、4年目となる来年度は、地元に残して学校と助け合いながら進めたい。地域学校協働活動については、後で説明する。

（3） 役割及び組織の確認

（4） 役員選出

合議の結果、飯地自治区協議会会長 瀬瀬 佳恭 様が会長に、飯地三学塾塾長 安田 勲 様と学校長 竹中 学 が副会長に決定した。

（5） 学校運営方針【本年度の力点】の説明（校長）

① 学びづくり

- * 「自ら学ぶ とともに学ぶ」を重点に、授業改善を行う。
- * 学校を再開したが、長い臨時休業があった。できることをやっていきたい。
- * 「臨時休業があったから力がつかなかった。」にたくない。学校としてのパフォーマンスを下げたくない。「〇〇ができなかった」で終わらず、その代わりに何かできないか、チャンスを見つけ、チャンスを生かしたい。
- * ICTについて、臨時休業中にオンライン授業ができた。市教委から物品の貸借の協力がありがたかった。また、家庭での通信環境も整っていたために実現できた。
- * オンライン授業の経験で、学校再開後も大型モニタやPC、タブレットを使った授業が増えた。授業参観でも、大型モニタを使った授業が多かった。

② 心づくり

- * 子ども中心の取り組みを行う。また、「夢プレゼンツプロジェクト」では、女子サッカー選手とコンタクトをとっているの、講演やサッカー教室ができないかと考えている。

③ からだづくり

- * 密にならないようにしているが、体育では難しい。体力をつけることに影響している。その中で、体力テストは中止になったが、テスト種目に取り組み、一輪車の練習にも取り組んでいる。

④ コミュニティづくり

- * 今年度は飯地特有の文化に触れることを大切にしたい。「ふるさと学習」を行うための情報を得ていきたい。

* もちつもたれつで、持続可能なコミュニティスクールのサイクルづくりをしたい。

(6) 意見交流

- ① ICTについての状況を知りたい。→ (校長) アミックスが見られない家は1軒のみ。休業期間中は、数軒に市教委から貸借していただいた端末を貸し出し、全家庭とオンラインでつながることができた。
- ② 夏休みのプールについて。高山市は学校に判断をゆだね、プールを行う学校があるという新聞記事を目にしたが。プールは子どもたちが楽しみにしていた。→ (校長) 市内統一してプールでの授業は行わない。市内でプールでの活動が対応できない学校もある。また、健康診断にかかわる行事が全く行われておらず、健康面の安全ということも考慮した。(市) プールのメンテナンス、管理も含めて、市として統一した。
- ③ 臨時休業があり、計画をすべて実施できるかどうか。→ (校長) すでにできないということもあるが、別のことでやれることもある。来年度も見越して考えていきたい。
- ④ 夏休みが短くなったが、給食はどうか。→ 授業日は給食が用意される。
- ⑤ こんにゃくの授業について、手紙をもらった。その後、子どもたちの様子はどうか。→ (教頭) 水やりも意欲的に行っている。様子を見に行き、クラスの掲示も作っている。
- ⑥ 夏の登校はどうか。→ (校長) 西山地区は、保護者が連絡を取り合って対応していただける方向である。15:00下校を考えている。
- ⑦ 昨年度の未履修についてはどうか。→ (校長) オンライン授業、プリント学習を行い、登校日に前学年の内容について確認した。全て終わっているわけではなく、複式の課程を利用して、今年度の学習の中で行う内容もある。今年度も臨時休業が2か月あったため、カリキュラムの編成をし直している。
- ⑧ (振興事務所長) ゴミステーションの設置については、環境課から説明がある。
- ⑨ 土曜授業はあるのか。→ (校長) 土曜日に追加して授業を行うことはない。
- ⑩ 5・6年生の授業をしたが、マスクがあると反応が分かりづらいので、大変だろう。
- ⑪ 消毒作業については、協力できないか市教委に依頼をしたい。
- ⑫ 小学校がなくなると、過疎化が加速する。地域運営委員会も盛り上げたい。
- ⑬ PTA活動も延期や中止せざるを得ない活動もある。資源回収は7/11に行く。
- ⑭ 登下校については本部役員会でも話題になり、保護者で連絡を取って対応する方向で話し合った。
- ⑮ 熊対応では、里山バスをスクールバスのような形での活用はできないので個人で申し込むことにした。

(7) 恵那市教育委員会より(地域学校協同活動について他)

- ① 法律の改正で、地域コーディネーターを設置することになった。申請すれば、謝金に使える補助金を受けることもできる。
- ② 「学校を地域の人も入って支える、子どもを育てる。」こうすることで、地域が活性化する。また、つながりを深め、協力することができる。
- ③ 令和2年度末にコーディネーターを決めて、令和3年度に委嘱できればと思っている。
- ④ 飯地のリーフレット作りの学習は、地域のことを知る、理解する点で良い取り組みである。中学校での地域に貢献できることを考え、学ぶことにつながる。
- ⑤ 地域コーディネーターは、小学校区で決める。所属については、地域で決める。活動しやすい所属がよい。仕事をするには自宅では無理なので、学校か振興事務所がよいのではないかと。
- ⑥ 教頭と連携を密にして情報のやりとりを行い、地域への広報を行ってほしい。
- ⑦ コーディネーターの報酬は、1か月3万円未満。
- ⑧ 学校の消毒作業について、話題という形だったことが、要請、依頼という意味で伝わり、苦情となって上がってくることがあるので、気をつけたい。